



【 2学期終業式を迎えるにあたって 】

2学期の終業式を無事に迎えようとしています。体育大会や合唱コンクール、学年によっては修学旅行や地域学習など、生徒が活躍する様々な行事が沢山ありました。行事をするたびに、生徒は心身ともに一回りも二回りも成長し逞しくなっていくのが実感できた日々でした。学級や学年集団として、人との関わり方はどうあるべきか、互いを高め合うにはどうしたらよいのかを考え、実践してくれたことが、大きな成長に繋がったと感じています。「感動・感激・感謝」の日々でした。保護者の方々には多くの参観や激励の言葉を頂き、本当にありがとうございました。

【 令和4年度 人権集会 】

12月8日(木)6校時に、生徒会の企画により「人権集会」が行われました。この集会は、人権週間に向けての取り組みとして、次の「すべての生徒・職員が人権を身近なものとしてとらえ、自他の権利を守ろうとする姿勢を育む。」を目的として実施されたものです。

【 西大村中学校 人権宣言 】

周りの人の考えや一人一人の個性を大切にすることができていますか？

自分の言動が気づかないうちに周りの人を傷つけてはいませんか？

「いじめ」を受けていると感じたり、嫌な気持ちになって苦しんだりしている人が周りにいませんか？

私たちの周りには私たちを支えてくれている人たちがいます。

ここに一人一人が学校生活を楽しく、気持ちよく過ごす権利があります。人を傷つけるようなことはあってはいけません。

最後に、お互いを認めあい、いじめのない学校にするために、次のことを努力していくことをここに誓います。

一、私たちは、一人ひとりの多様な個性を尊重し思いやりのある行動をします。

一、私たちは、人を傷つける言動は絶対にしません、許しません。

一、私たちは、周りの人や物への感謝の気持ちを大切にします。

一、私たちは、差別や偏見がない社会を実現するため、学び続けます。

一、私たちは、自分らしく生きることのできる環境をみんなで作っていきます。

令和4年度12月8日

西大村中学校 人権学習委員会

人権集会では、LGBTに関する人権アンケートの結果発表、事前に募集されていた「人権標語」の紹介など、内容が充実しており、生徒一人一人が人権意識を高められるものになっていました。

西大村中学校から、いじめや差別で悲しむ生徒を一人も出さないという強い決意を持つことが大切です。ご家庭でも、ぜひ話題にしていいただければと思います。

以前、縁あってプロスキーヤーの三浦雄一郎氏に記事を書いてもらったことがあります。その中に、非常に興味深い提言があったので、ここでその一部を紹介させていただきます。

自然は最高の学校 三浦 雄一郎

ネズミの飼育実験で非常に興味のある結果がでた。

子ネズミを二つのグループに分け、ひとつは、暖かく快適な環境で、食べ物も不自由させないで育てる。いわば金持ち過保護のネズミたち。

もう一方は野生に近い環境、ときには食べ物も不自由がちにし、冷たかったり、痛いめにもあわせる。

こうして育てたネズミを、成長してから部屋にいっしょに放してみる。

すると過保護グループは、やみくもにたがいに頭をくっつけ合い、部屋のかたすみにひとかたまりになってしまう。そこに棒などでつつくと、噛み付いたり、しゃにむに反抗するが、やがて錯乱状態になってしまう。

一方、野生に近いグループは部屋に放たれると、それぞれグルグル走りまわって、クンクン嗅いだりして部屋を調べる。どこかに穴はないか、水は、食べ物は、と探し回る。やがてリーダーに従って、それぞれが安全で快適そうな自分の場所を定めて落ち着く。そこへ棒など突き出しても、一応は反抗らしい素振りは見せるが、要領よく逃げ回って、やたらに噛み付くなどの抵抗はしないで、安全な場所へ逃げ込んでしまう。

いまの日本のほとんどの子どもたちは、この過保護ネズミ状態かもしれない。

ちょっとしたことで、ムカつく。キレる。人間が動物として過保護に育てられた結果として、子どもたちだけじゃなくて、こうして育てられた若者や大人たちまでもが、集団ヒステリー、さらには子育て、家族のつながり、群や仲間を守るという、生き物としてもっとも大切な、それこそ、「生きる力」の原点を見失いつつあるのではないだろうか。

さらには、目まぐるしいほど進化につぐ進化の情報化社会、クルマや電化による、あらゆる快適性を求め続ける社会と家族生活。

私たちは、ますます、過保護ネズミとして飼育されつつあるのではないだろうか。

人間とネズミはもちろん違う。しかし、生き物としての原点、原則はそんなに違うわけがない。ヨーロッパ社会の古いことわざに「子どもを幸せにしたかったら、飢えと寒さを味わわせなさい」とあるように、人間が生きる基本的なことは幼い頃から身体にたたきこまれる必要がある。

私たちはネズミの実験から学ばなければいけないことがあるような気がする。こんな時代だからこそ、子どもたちにスポーツや野外生活をたっぷり経験させることが必要だと思う。

～ 後略 ～

過剰な危険回避、人間関係への過干渉、必要以上に与える物品や食料、目的地への送迎など、私たち大人は、手取り足取り手間をかけ子どもたちの生活環境を整えすぎているのかもしれない。

「将来、どんな環境でも自立してたくましく生き抜く子ども」を育てるために、子育ての基本(ねっこの育て方)として提言をいただいているような内容です。

令和4年、保護者や地域の皆様には大変お世話になり、

ありがとうございました。

来年も西大村中学校が、更なる飛躍ができますよう、

よろしくお願いいたします。良いお年をお迎えください。